サポセン mail　No.１５４．2016.1.３１発行

＜発行元＞　特定非営利活動法人　緑区子どもサポートセンター
千葉市緑区誉田町２－２４－１６　ＴＥＬ＆ＦＡＸ　０４３－３０８－４４３６
E-MAIL:kids-support-midori@coffee.ocn.ne.jp
URL:http://saposen.konnjiki.jp/

貧困・・・地域で私たちができること

子どものいる家の水道は止めないで！

１２月２０日の朝日新聞の『声』のページに元高校教員の方の投稿がありました。とても心に残る文章でしたので、一部をご紹介したいと思います。

『私は定時制高校の教師でした。高校入学前に水道を止められた経験のある生徒が何人かいました。公園でバケツに水を汲んで生活していたそうです。授業で私は生徒たちに「人権とは自分が人間として大切にされる権利。少なくとも、中学生以下の子どものいる家の水道は止めないような社会にしよう」と話しました。

消費増税時に何を税率８％に据え置くかが「軽減」という言葉で議論され、食品と外食の線引きが論議されています。何かおかしいと思います。それは水道が「軽減」の対象にさえなっていないことです。――＜略＞――私は不思議でなりません。悲しく思います。バケツを持って公園に行く子どもを一人でも減らしてください。』

自己責任を求められる国。

近年、親の介護のため・自身の病気のため・離婚など、様々な理由により離職を余儀なくされると、その後正規職員には戻れず一気に貧困に陥ってしまうことが、とても多くあります。でも、それまで勤勉に一生懸命働いてきた人が、自分の親や家族の面倒を見たいと思うことや病気になってしまうことは、そんなにいけないことなのでしょうか。非正規雇用が半数近くになっている日本は非常に危うい一面を常に持っていることになります。

（先月サポセンに書かせていただいた）長女を部屋明け渡しの強制執行日に殺害してしまった母親も学校給食センターのパート職員だったため、夏休みは仕事がなく９月の収入は元夫からの養育費（３万円）だけだったそうです。「長年にわたり生活に困窮する中、強制執行により住む場所さえ失う現実に、精神的に追い詰められた」と一審判決は結論づけました。

地域で私たちができることは？

家庭の貧困は子どもの非行や問題行動に直結することが多々あります。人権懇話会に参加したとき、参加者から「地域で私達ができることは何ですか？」と質問がありました。児童家庭支援センターの相談員である宇田川政男氏は次のように話をしました。「ちいさい頃からつながっているという地域感覚が非常に大切です。髪の毛を真っキンキンに染めていても「チィ～ッス！」って挨拶してくれる子がいます。親以外でも「学校行きなよ！」「〇〇しちゃだめよ！」と声をかけてくれるおじちゃんやおばちゃんに見守られているという感覚がある子は本当に悪いことはしないものです。」

１２月　土曜あそび塾

「みんなで餅つき！ぺったんこ！」

１２月６日（日）誉田公民館にて、「みんなで餅つき！ぺったんこ！」を行いました。
今回は、「ほんだねっと」の若いお父さん、お母さんのご協力を頂き、もち米を蒸すところから、臼と杵でつく力仕事まで、全面協力のおかげで開催する事が出来ました。

当日は寒い時期にも関わらず、あそび塾の子どもは１５名、ほんだねっとの子どもは１２名、大人は１１名、サポセンの中学生３名、青年のすあま、その他一般の大人や幼児、理事も含めると総勢５５名という大人数でワイワイガヤガヤ、にぎやかに餅つきを楽しみました。

今回、中学生と６年生には、初めは豚汁を作ってもらい、その他の子どもは、ほんだねっとのお父さんに教わって餅をついたり、つきあがった餅を丸めて味をつけたり、という仕事をしました。中学生と６年生はみんなキャンプで調理は経験済みの子ばかりなので、危なげない手つきでお野菜を薄く丁寧に切って美味しい豚汁を作ってくれました。

餅つきは、公民館入口横の場所をお借りしました。北風が冷たかったですが、戸外にストーブも用意して、時々暖を取りながらの作業でした。
最初の餅は、餅とり粉で丸め、お持ち帰り用です。あんまり引っ張らずに親指と人差し指で丸を作ってちぎり取ると良いと教わりましたが、なかなか上手にいかず、結局びよ～んと引っ張って、いろんな形のお持ち帰りができたと思います。
次のお餅は大根おろしの辛味餅、次はしょうゆをつけて海苔を巻く磯部餅、次は黄な粉餅
というように、次から次へとつきあがった餅に味を絡めました。

子どもたちもだんだん慣れてきて、大きな塊の柔らかい餅が来ると、我先にと手を出し、
ちぎったり、丸めたり、大根おろしやしょうゆ、黄な粉に手を突っ込んで、最後はぐちゃぐちゃと餅の感触を楽しんで触りまくる、という状況でした。

餅つきも、最初はおっかなびっくりだった子も、慣れるにつれ、楽しそうに何回もついていました。特に男の子は頼もしいお父さんたちに触発され、頑張っていました。
食事のときに、「今日は何が一番楽しかった？」と聞くと「お餅つき」と答えた子が多かったので、本当にみんな楽しんだのだと思います。もちろん、中学生と６年生も豚汁の後はちゃんと餅つきをしました。

ちょうどお昼の時間にすべての餅がつきあがり、調理室にてみんなで頂きました。
子どもに人気だったのは、甘い黄な粉餅と磯部餅でしょうか。辛味餅が不人気だったのは仕方ないですが、お汁粉の人気もイマイチで、今の子は餡子の苦手な子が多いと思いました。
豚汁はもちろん、大人気でした。

ほんだねっとのイクメンパパたちは本当に爽やかでたくましく、ママたちは子どもたちを優しく見守っている様子で、ほとんど親世代の私たち理事を思いやって動いて下さいました。また、あそび塾のお母さんも、廊下の掃除や洗い物など、お願いしなくてもさっと動いて下さり、全体的に、誰が誰を動かしているわけではなく、みんなが子どもたちのために、と自然に働いている姿が感動的でした。

餅つきというと、今ではお正月という感じですが、本来はお正月に限らず、お祝い事のある時はついていたそうです。つまり、ハレの日の行事だったのですね。
臼と杵を使う餅つきは、人手も手間もいりますので、今は家庭で行う家は少ないと思います。子どもたちも普段なかなか経験できない貴重な体験ができ、しかも、サポートセンター以外の大人にも触れ合うことができ、美味しい餅もたくさん食べて、大満足の一日だったと思います。

（記　大多和　）

みんなで作ろう！「こどものまち」

１月１０日（日）第１回「スマイルグリーンシティ」のコアスタッフ会議が誉田の事務所で行われました。今年初めての集まりなので、まずは恒例の鈴カステラを作って食べました。たこ焼き器にホットケーキの素を入れてクルクルと焼きます。途中からチョコも入れて焼くと、マーブル味になってとってもおいしかったね！

参加者は小学生が７名、中学生が３名で今年初めて店長として参加する男の子も２名いました。話し合いはまず、去年の「こどものまち」の感想を聞きました。１～２年目のような「大人に〇〇って言われた。」「～～の人がいて、とても困った。」などの声は少なく、「出前券で品物を届けて、喜ばれた。」「みんな、頑張って働いてくれた。」などの感想が出ました。去年まで、お客さんとして参加していた二人からは、「職安を待つ列がとても長く、だいぶ待たされた。」「おにぎりは小さくてとても食べやすかった。」などの意見が聞かれました。

今回も職安の待ち時間が長いことと、朝の時間は、働きたい人ばかりでお店の品物が売れないということが課題のようです。こどものまちのシステム上仕方のない面もありますが、１０時～１１時の時間限定タイムセールをやろうとか、時間限定のスマイル（おこづかい）をあげよう！というアイデアもでました。

１月１７日（日）は第１回「こども会議」があり、２８名の店長希望者が集まりました。初めにコアスタッフから「こどものまち」のルールについて説明があり、その後どんなお店をやりたいか、どんな準備が必要かを考えました。今のところ決まっているのは次のお店です。まだ決まっていない子もいるので、もう少し増えそうです。楽しみですね。　（記　安藤）

職安・銀行・焼きドーナッツ・焼きそば・すずカステラ・焼き菓子（クッキー）
サンドウィッチ・フルーツポンチ・カフェ（パン・ジュース）・水射的・輪投げ
モザイクアート制作・ゆびあみ・プラ板・絵本